

だい
第2
ステップ

A

ことばの ルールを まな 学ぶ

おうちの方へ

第2ステップでも、まずは正しい表記についての勉強から始めます。第1ステップよりも少し難しい問題です。大人でも間違ってしまうような問題も含まれています。一般に間違われて使われているような表記も交じっています。このような問題に触れながら、表記に対してお子さんの注意を向けるようにします。そして、徐々にお子さんがことばへの関心を高めていけるようにしています。

も
ん
だ
い
1

日本語の表記に親しむ問題

こた
答えは、べっさつ

3
ページ

つぎの文^{ぶん}を読んで、書き方^{かた}の正しいほうの
記^きごうに○をつけましょう。

1

ア ぼくは、おうきな家^{いえ}を見^みつけました。
イ ぼくは、おおきな家^{いえ}を見^みつけました。

おうちの方への アドバイス



まずは第1ステップと同じように、
正誤問題から始めます

ここでは、音の上では同じなのに表記は異なるという例をいくつか交えています。なぜそうなのかお子さんに質問されるかもしれません。文法的に正しく答えても、低学年のお子さんに理解するのは難しいと思いますので、一つひとつ覚えるように教えることをお勧めします。

5

イ ア
わたしのいとこは、とおくの町まちにすんでいます。
わたしのいとこは、とおくの町まちにすんでいます。

4

イ ア
このジュースはまずい。
このジュースはまずい。

3

イ ア
先生せんせい、さようなら。
先生せんせい、さようなら。

2

イ ア
お母さんかあ、いつてきます。
お母さんかあ、いつてきます。



おぼえよう！

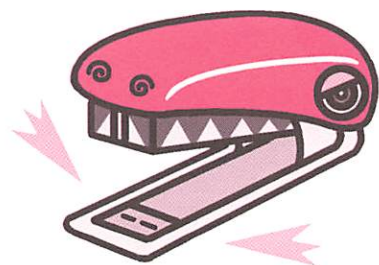
おくりがな①

ことばが形かたちをかえるときに、文も字じがかわるところから、おくります。

書かく→書かかない→書かきます→
書かくとき→書かけば→書かこう

◎帰かえる、走はしる、行いく、歩あるく、読よむ、
歌うたうなども同おなじです。

教科書きょうかしょの後うしろのかん字じひょうを
見みておぼえましょう。



6

ア けんいちくんは、ぼくよりも力がつよい
 イ けんいちくんは、ぼくよりも力がつよい。

7

ア そんなことをゆうのは、わがままな子どもです。
 イ そんなことをいうのは、わがままな子どもです。

8

ア わたしのおとおとは、まだ三才です。
 イ わたしのおとおとは、まだ三才です。

9

ア あの先生は、気がみじかい。
 イ あの先生は、気がみぢかい。

10

ア このマンガのつずきが、早く読みたい。



!!!



おぼえよう！

「ぢ」、「づ」

くちい
口で言うときは「ジ」、「ズ」
でも、書^かくときは「ぢ」、「づ」
と書^かくきまりになっている
ことばもあるので、気^きをつ
けましょう。

◎二^{ふた}つのことばがつながって
いるもの

はなーち→はなぢ

かなーつかい→かなづかい

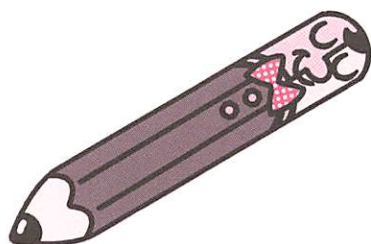
こーつかい→こづかい

こーつつみ→こづ^{ふた}つみ

◎「ち」や「つ」が二^{ふた}つかさ
なっているもの

○ちぢむ ×ちじむ

○つづく ×つずく



11

イ ア

大^{だい}き^{だい}ら^{だい}いな^{だい}ニン^{だい}ジン^{だい}を、
大^{だい}き^{だい}ら^{だい}いな^{だい}ニン^{だい}ジン^{だい}を、

少^{すこ}し^{すこ}づ^{すこ}つ^{すこ}食^たべる。
少^{すこ}し^{すこ}づ^{すこ}つ^{すこ}食^たべる。

イ

このマンガのつづきが、
早^{はや}く読^よみたい。



つぎの文を読んで、書き方の正しいほうの記号に○をつけましょう。

1

ア あしたは、晴れるでしょう。
イ あしたは、晴れたでしょう。

2

ア すず虫の鳴き声を聞こえる。
イ すず虫の鳴き声が聞こえる。

3

ア ゆきちゃんは、よくへそをまがる。
イ ゆきちゃんは、よくへそをまげる。

おうちの方への アドバイス



正しい書きことばとして、
「れる・られる」の用法を覚えさせます

「見れる」などの「ら抜きことば」は、ことばの乱れとして取り上げられる典型です。正しい書きことばとして、「れる・られる」の用法を覚えておく必要があるでしょう。

文法的に言うと、「れる」は、五段活用動詞およびサ行変格活用動詞の未然形につきます（この場合のサ行変格活用動詞の未然形は「さ」の形をとる）。「られる」は、上一段活用動詞、下一段活用動詞、力行変格活用動詞および使役の助動詞「せる」「させる」の未然形につきます。

お子さんにはもちろん、一般の大人にとっても、この説明はあまりに専門的でわかりにくいものです。もっとわかりやすい見分け方があります。

紛らわしい時には、命令の形にしてみてください。最後が「ろ」になる場合は、「られる」がつきます。「投げる」は「投げろ」ですから、「投げられる」であって、「投げれる」とは言いません。「食べる」は「食べろ」だから、「食べられる」「見る」は「見ろ」だから、「見られる」です。

この方法ですべてを見分けられるわけではありませんが、ほとんどの場合に有効ですから、確かめてみてください。

4

ア ぼくのたからものを、友だちに見らせる。
イ ぼくのたからものを、友だちに見せる。

5

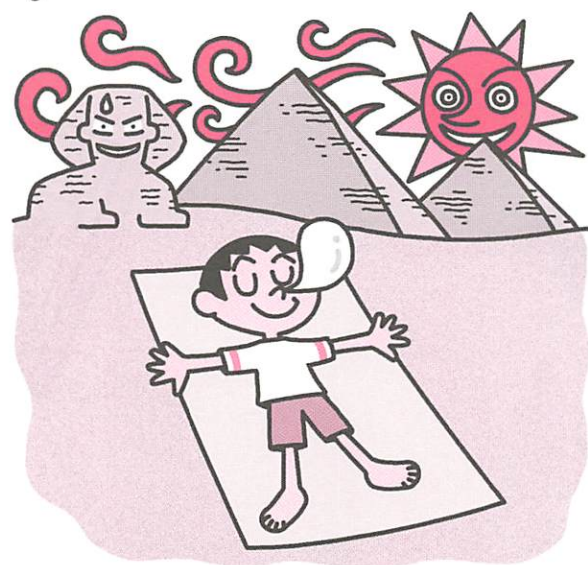
ア ぼくは、どんなにあついてもねれる。
イ ぼくは、どんなにあついてもねられる。

6

ア 母は兄に、たまごを買いに行かせた。
イ 母は兄に、たまごを買いに行かせた。

7

ア わたしがすきなのは、スパゲッティがすきです。
イ わたしがすきなのは、スパゲッティです。



8

ア ここから、外そとに出でられます。

イ ここから、外そとに出でれます。

9

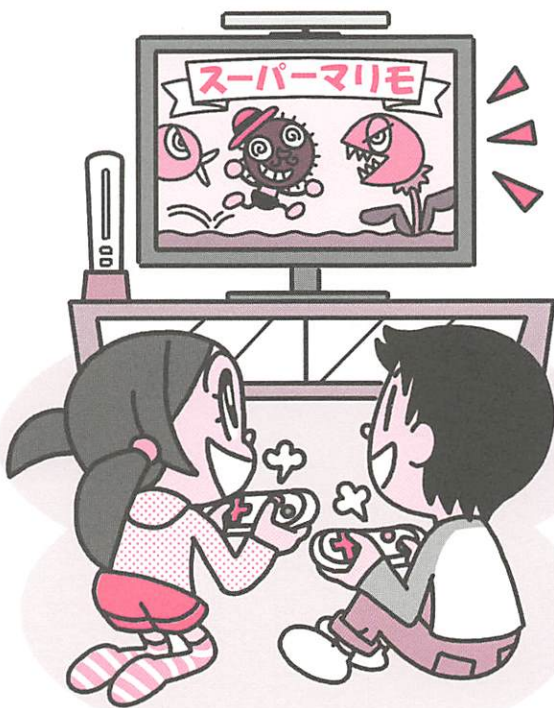
ア 算数さんすうのしゅくだいが、なかなかおわります。

イ 算数さんすうのしゅくだいが、なかなかおわりません。

10

ア 友だちともとやったゲームは おもしろかった。

イ 友だちともとやったゲームは おもしろいでした。



もんだい3

書きことばを覚える問題

答えは、べっさつ

3ページ

どちらが、書くときのことばでしようか。
書くときのことばをつかっているほうの記号に○をつけましょう。

1

ア ぼくは、つついゲームをしちゃう。
イ ぼくは、つついゲームをしてしまう。

2

ア 早くふとんをしきなさい。
イ 早くふとんをひきなさい。

3

ア おそくなって、すいません。
イ おそくなって、すみません。

おうちの方へのアドバイス



方言は方言、俗語は俗語と認識して使ってほしい

子どもたちは、流行語や俗語や方言をほとんど意識しないで使っています。そうしたことばを使うこと自体は表現を豊かにするのに好ましいことなのですが、方言は方言、俗語は俗語と認識して使ってほしいものです。

ここでの問題は、そのような意識をお子さんに持ってもらうための訓練と考えてください。このような問題をこなすうちに、さまざまな種類のことばを理解していきます。



4

ア この本^{ほん}は、すごいおもしろかった。

イ この本^{ほん}は、すごくおもしろかった。

5

ア りなちゃんはかなしそうで、いつ

もとちがかった。

イ りなちゃんはかなしそうで、いつ

もとちがっていた。



おぼえよう！

おくりがな②

にたような読み^よ方^{かた}が二^{ふた}つあるときは、文字^{もじ}がちがうところからおくりします。

れい→止^とまる→止^とめる

生^うむ→生^うまれる

下^さがる→下^さげる

聞^きく→聞^きこえる

上^あがる→上^あげる



もんだい4

読みやすい文を書く力をつける問題

答えは、べっさつ

4ページ

つぎの文が読みやすくなるように、
点（、）をうちましよう。

1 あしたは遠足の日なので晴れてほしい。

2 ジャンブルジムであそぶのはとても楽しい。

3 ぼくは道でころんでひざをすりむいてしま

いました。

4 わたしは男の子とけんかをしてまけたこ

とがありません。

おうちの方への
アドバイス



日本語には、読点（いわゆる、点）の打ち方について、はっきりした決まりはありません

読点はかなり自由に打つてよいのですが、だいたいの基準があるので、それをおきましよう。以下にあげておくことを基準として、お子さんに指導してあげてください。

a 主語が長いとき、主語の後に付ける。

【例】私の知っている人は、その中にはいない。

b 文頭の接続語・独立語の後に付ける。

【例】したがって、私はそれには賛成である。

おい、ちよつと待て。

c 重文で、「……だが」「……なので」などの後に付ける。

【例】たくさんの方がいたので、私はさつさと帰った。

d 続けて書くと、誤解されるときに付ける。

【例】その後、四郎さんがやってきた。（その後四郎さんがやってきた）にすると、「後四郎」という名前だと取れる。）

e ことばを並立させるときに付ける。

【例】テレビの野球中継で松坂、イチロー、ダルビッシュを見た。

5 きょうぼくの弟はかぜをひいてようち園を休んでいます。

6 きノウわたしは算数のしゅくだいをわすれて先生にしかられました。

7 わたしははんたいしましたが妹はそのお金でケーキを買いました。

8 これからわたしはお母さんのおつかいでコンビニへ食パンを買いに行きます。

9 たくやくんはやっと自てん車にのれるようになったのでとてもうれしそうです。

10 休み時間まさみちゃんはゆういちくんにわる口を言われてとてもおこりました。

も

ん

だ

い

5

三

反対語を覚える問題

答えは、べっさつ

4

ページ

赤字^{あかじ}

のものとほんたいのいみのことばを、（ ）の中^{なか}に入れ^いましょう。

1

クジラは^{おお}大きい^{おほ}が、メダカは（ ）。

2

となりの家^{いえ}のにわは^{ひろ}広い^{ひろ}が、わたしの家^{いえ}のにわは（ ）。

3

ようこちゃんのかみの毛^けが^{なが}長い^{なが}が、わたしはかみの毛^けが（ ）。

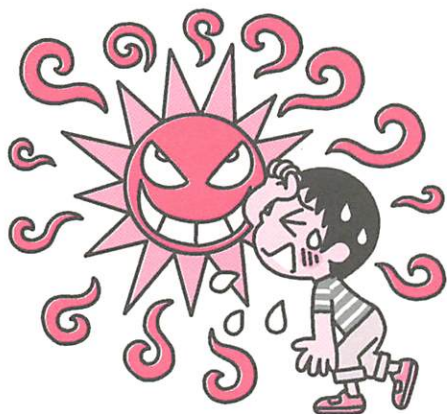
4

わたしのへやはいつも^{ねえ}きたない^{きたない}が、お姉^{ねえ}さんのへやは

いつも（ ）だ。

5

夏^{なつ}は^{あつ}あつい^{あつ}が、冬^{ふゆ}は（ ）。



6

ぼくの父は頭ちち あたまがかたいが、母ははは頭あたまが（ ）。

7

うちの犬いぬはうるさいが、となりの犬いぬは（ ）。

8

昼ひるは明あかるく、夜よるは（ ）。

9

お父とうさんのゆびは太ふといが、わたしのゆびは（ ）。

10

お兄にいさんのけいたい電話でんわは新あたしいが、お父とうさんのは（ ）。





おぼえよう！

おくりがな③

◎「^{ふる}古い」のように「い」、^{あた}「^{あら}新しい」のように「しい」のつくことば

^{たか}高い ^{ふと}太い ^{ちか}近い ^{なが}長い ^{くろ}黒い ^{よわ}弱い ^{ただ}正しい ^{した}親しい

◎^よ読みまちがいのないように一つ^{ひと}多く^{おお}おくることば

^{すく}少ない ^{あか}明るい ^{ちい}小さい ^{おお}大きい

※「明」というかん字は^じ読み方^よが多^{かた}いのでまちがえないでね。

ものの^な名前^{まえ}をあらわすことばは、「^{つき}月」「^{かわ}川」などのように、ふつうはおくりがなをつけません。ただし、^{かず}数^{かぞ}を数える「つ」や形^{かたち}のかわることばからできたことばには、おくりがなをつけます。

◎とくべつにつけることば

^{ひと}一つ、^{ふた}二つ、^{みつ}三つ……^{この}九つ ^あ当たり ^{こた}答え ^{ちか}近く ^{うし}後ろ

◎とくべつにつけないことば

むかし^{ばなし}話（うごきをあらわすときはつける→^{はな}話し^あ合い）

^ひひ^{ひかり}かり 日^にの光 ^{ねん}二^{さん}年^{くみ}三組